

2020年頃を目指すべき社会を展望するに当たって ～ネットワークの観点から～

資料基1-7-3

(独)情報通信研究機構理事
富永 昌彦

2020年頃を目指すべき社会(知識情報社会)を展望するに当たり、ネットワークが基本的な設計について現状のものを維持したまま発展すると想定すると、次のような問題があり、望ましい社会像及びその社会におけるICT利活用の検討に大きな制約

増大していく情報伝送需要に対応できない(情報伝送容量が不足する、情報伝送量の増大にともなうエネルギー消費の増大に対応できない)

拡大しているセキュリティ上の脅威への対応に限界

新たなICT利活用を実現するために新たにネットワークに必要な機能を追加することが困難

2020年頃の社会を展望するに当たっては、
ネットワークを大きく発展させることを前提とする必要

NICTでは、現在のネットワークに顕在化し始めている諸問題を解決し、社会が抱える諸課題の解決に寄与するとともに、高度な知的活動を支える情報通信基盤として、今後数十年に亘り社会を支えていくネットワーク「新世代ネットワーク」を実現することを提唱し、産学官で連携しながら研究開発を推進
なお、欧米においても将来のネットワークについての検討が活発化